

アイヌ民話ライブラリ 2

上田トシの民話 2



アイヌ民族博物館

第6話 散文の物語

河童神の恋

収録日：1996年9月28日

資料番号：35232B

添付CD：4-2（7分32秒）

第6話 散文の物語「河童神の恋」¹⁾

(どこかの男が語る)

シネ マツネポ アコロ
sine matnepo a=kor
一人 娘 (私)持つ

私はひとり娘を持ち

シネ アマチ アン ヒネ
sine a=maci an hine
一人 (私の)妻 い て

妻を持って

オカアン ペ ネ イケ
oka=an pe ne _hike
暮らす(私) もの である したが

暮らしていました。

ユプテクアン ペ ネ クス
yuptek=an pe ne kusu
働き者である(私) もの だ から

私は働き者なので

5 ネプ カ アエシリキラプ カ
nep ka a=esirkirap ka
何 も (私)苦労する も

何も苦労することなく

ソモ キ ノ オカアン。
somo ki no oka=an.
しない で 暮らす(私)

暮らしていました。

アマチヒ ネ ヤッカ
a=macihi ne yakka
(私の)妻 で も

妻も

ネプ ネ ヤッカ エアシカイ ワ
nep ne yakka easkay wa
何 で も 上手 で

何でも上手で

シリキラプ アナクネ サクノ オカアン
sirkirap anakne sakno oka=an
苦労 は なく 暮らす(私)

苦労することなく暮らしていました。

10 オラ シネ マツネポ アコロ ペ ネ クス
ora sine matnepo a=kor pe ne kusu
こんど ひとり 娘 (私)持つ もの だ から

ひとり娘がいたので

ネア マツネポ ネ ヤッカ アエヤム クス
nea matnepo ne yakka a=eyam kusu
その 娘 で も (私)大切にする ので

その娘を大切に

エイタサ アネプキレ カ ソモ キ ノ
eytasa a=nepkire ka somo ki no
あまり (私)働かせる も しない で

あまり働かせることもなく

1 この話は1996年9月28日アイヌ民族博物館主催のアイヌ文化教室「口承文芸の夕べ」で採録されたもの。解説者は本田優子氏。この話の伝承経路については特にコメントがない。

オカアン ペ ネ ア プ
oka=an pe ne a p
暮らす(私) もの だった が

暮らしていたのでした。

シネ アン タ エソイネ フマシ クス
sine an ta esoyne humas kusu
あるとき 外で 音がする ので

あるとき外で音がするので

15 …ヤク イエ コロ ソイエネ アクス
…yak ye kor soyene akusu
と 言い ながら 外に出 たところ

娘が外に出たところ

“ソイ タ アエラミシカリ オッカヨ
“soy ta a=eramiskari okkayo
外 に (私)見たことがない 男性

「外に見たこともない男性が

アン ルウエ ネ”
an ruwe ne”
いる こと である

いるのですよ」

セコロ ハウエアン イ クス
sekor hawean _hi kusu
と 言う ので

と言うので

“アフンケ ヤク ピリカ”
“ahunke yak pirika”
入れる と いい

「入れてあげたらいい」

20 セコロ アイエ ワ
sekor a=ye wa
と (私)言う して

と言いました。

アフン ルウエ ネ ア プ…ワ
ahun ruwe ne a p wa
入る こと だった が して

家に入ると

オラ イエランカラプ カ キ
ora i=erankarap ka ki
こんど (私に)挨拶する も をする

私に挨拶をし

アエランカラプ カ キ コロ
a=erankarap ka ki kor
(私)挨拶する も し て

互いに挨拶を交わして

オカアン ラポッケ オラ
oka=an rapokke ora
暮らす(私) そのうちに こんど

から

25 “レウシアン ルスイ”
“rewsi=an rusuy”
泊る(私) したい

「泊めてください」

セコン ネ ヒ クス
sekor_ ne hi kusu
と 言う ので

と言うので

“レウシ ヤッカ ピリカ”

“rewsi yakka pirka”

泊っ ても いい

「泊まっていくといい」

セコロ アイェ コロ アナン ア プ

sekor a=ye kor an=an a p

と (私)言っ て いる(私) した が

と言ったのでした。

オラ レウシ ア プ

ora rewsī a p

こんど 泊っ た が

泊まって

30 オラ イシムネ ネン² カ アラパ カ ソモ キ ノ

ora isimne nen ka arpa ka somo ki no

こんど 翌日 どこ も 行く も しない で

翌日どこかに行く様子もなく

オラ エキムネ ヤイエトコイキ ワ エキムネ ア プ

ora ekimne yayetokoyki wa ekimne a p

こんど 山獵に行く 身支度をし て 山獵に行っ た が

山獵に行く準備をして出かけて行き

オラ オヌマン アクス

ora onuman akusu

こんど 夜になっ たところ

そして夜になると

ポロ シケ キ ワ イワク

poro sike ki wa iwak

大きい 荷物 を持って 帰る

大きな荷物を持って帰って来ました。

オラノ アナクネ

orano anakne

それから は

それから

35 ネウン カ アラパ カ ソモ キ ノ

neun ka arpa ka somo ki no

どこ も 行き も しない で

どこにも行かずに

ケシ ト アン コロ エキムネ コロ

kes to an kor ekimne kor

毎日 山獵に行っ て

毎日山獵に行って

ユク ネ チキ カムイ ネ チキ エアウナルラ

yuk ne ciki kamuy ne ciki eawnarura

シカ で も クマ で も 家に運ぶ

シカやクマを捕って来ました。

カ タ エアラキンネ アラキキクル ネ ヒネ

ka ta earkinne arkikikur ne hine

上 に 本当に 頑張る人 であっ て

その上本当に働き者で

セ ワ イワク カム ネ ヤッカ キ コロ

se wa iwak kam ne yakka ki kor

背負って 帰る 肉 で も し ながら

背負って帰った肉であっても

2 ネウン neun (どこ) が短く発音された形。

- 40 ナニ サカンケ ネ ヤ サカンケ キ ワ
 nani sakanke ne ya sakanke ki wa
 すぐに ゆでて干す だ とか ゆで干し し て
 すぐに茹で干しなどにして
- サツサトウ サツ ペ オポキン
 satsatu sat pe opokin
 干物にする 干す もの 次々に
 干すものは次々に
- サキリ オロ エウシ ワ
 sakir or eus wa
 干し竿 に 刺し て
 干し竿に干して
- チセ コトロ ネ ヤ チセ パラカ³ ネ ヤ エウシ
 cise kotor ne ya cise parka ne ya eus
 家の 天井 だ とか 家の 天井 だ とか 刺す
 家の天井から干していました。
- イネアプ タ ヤイエサンニヨエアシカイ⁴ クル ネ ヤ
 ineap ta yayasanniyoeaskay kur ne ya
 なんとまあ 自分で配慮することができる 人 だ とか
 なんとまあ手際のいい人であることは
- 45 アエラミシカリ ノ
 a=eramiskari no
 (私)見たことがない で
 見たこともないくらいの
- ヤイコアリキキ
 yaykoarikiki
 ひとりで頑張る
 働き者でした。
- オラ ニナ… ニナ ワ
 ora nina... nina wa
 こんど 薪とりし て
 またまきをとって
- チセ オカリ ニイキリカラ⁵ ネ ヤ キ コロ アン
 cise okari niikirkar ne ya ki kor an
 家 のまわり 薪を積み上げる だ とか し て いる
 家のまわりに積み上げていました。
- オラ アリキキ プ ネ クス
 ora arikiki p ne kusu
 こんど 頑張る もの だ から
 働き者なので
- 50 イエイリパク イペアン カ アエラミシカリ
 i=eirpak ipe=an ka a=eramiskari
 (私)と一緒に 食事をする(私) も (私)知らない
 私と一緒に食事をしたこともなく
- クンネイワ カ トウナシノ ホプニ ワ イサム
 kunneywa ka tunasno hopuni wa isam
 朝 も 早くに 起き て いない
 朝早くに起きて出かけてしまい

3 チセ コトロ cise kotor とチセ パラカ cise parka はどちらも家の内側から見上げた天井付近のこと。

4 ヤイエサンニヨエアシカイ yay-e-sanniyo-easkay (自分・について・を配慮する・ができる)。

5 ニヒキリカラのように発音されている。ニイキリカラ ni-ikir-kar (木・集まり・作る)。冬に備えて家のまわりにまきの山を作り、いろりにまきをくべるときにあまり長い時間極寒の野外で作業しなくていいように効率的にまきを消費する積み方をしておく必要がある。本来女性がやるようなことも、働き者なので手際よくやったということだろう。

オヌマン ネ ヤッカ
onuman ne yakka
夜 で も

夜であっても

シリクンネ ヤッカ アフン カ ソモ キ ノ
sirkunne yakka ahun ka somo ki no
暗くなっ ても 家に入り も しない で

暗くなっても家に入らずに

ソイ ペカ ネプキ コロ アン
soy peka nepki kor an
外 で 働い て いる

外で働いていました。

55 ラポッケ ホシキ イペアン ワ
rapokke hoski ipe=an wa
そのうちに 先に 食事をする(私) して

私が先に食事をして

ホッケアン オカ タ アフン ランケ… ヒケ
hotke=an oka ta ahun ranke... hike
寝る(私) 後 で 家に入る (何度もする) したが

寝ついた後でいつも家に帰って来るという

オラノ エイタサ ヤイコアリキキ シリ
orano eytasa yaykoarikiki siri
こんど あまり 自分で頑張る 様子

あまりにも働く様子を

アヌカラ ヒ オラ エネ ヤイヌアニ。
a=nukar hi ora ene yaynu=an _hi.
(私)見る こと こんど こう 思う(私) こと

見てこう思いました。

“アマツネポ コン ルスイ ヘネ キ ワクス
“a=matnepo kor_ rusuy hene ki wakusu
(私の)娘 を妻に持ち たい でも する から

「私の娘を妻にしたいから

60 エネ ヤイコアリキキ ヘネ キ シリ ネ ヤ”
ene yaykoarikiki hene ki siri ne ya”
こんな ひとりで頑張る でも する 様子 だ か

このように働いているのだろうか」

セコロ ヤイヌアン コロ
sekor yaynu=an kor
と 思う(私) ながら

と思いながら

トゥラノ アナン ルウェ ネ ア プ
turano an=an ruwe ne a p
一緒に 暮らす(私) こと だっ た が

一緒に暮らしていました。

オラノ ネプ カ アエシリキラプ カ ソモ キ クニネ
orano nep ka a=esirkirap ka somo ki kunine
それから 何 も (私)苦勞し も しない ように

そして何も困ることがないように

チクニ ヘネ アエプ ネ ヤッカ サツケ ネ ヤ
cikuni hene aep ne yakka satke ne ya
薪 でも 食べ物 で も 干す で も

まきや食べ物であっても干して

65 ネン ネン イキ コロ オカアン ペ ネ ア プ
nen nen iki kor oka=an pe ne a p
いろ いろ し ながら 暮らす(私) もの だっ た が

いろいろしながら暮らしていたのでした。

シネ クンネイワ ホプニアン アクス
sine kunneywa hopuni=an akusu
ある 朝 起きる(私) したところ

ある朝、

ホツケ ヒネ アン ヒネ
hotke hine an hine
寝 て い て

寝ていた

ホプニアン カ キ アクス
hopuni=an ka ki akusu
起きる(私) も し たところ

私が起きたところ

オラ イオシ ホプニ ヒネ
ora i=os hopuni hine
こんど (私の)後から 起き て

私の後から起きて来て

70 アマツネポ コイプニ ヒネ イペ カ キ…ア プ
a=matnepo koyupuni hine ipe ka ki... a p
(私の)娘 食事を出し て 食事 も し た が

娘が食事の用意をし、食事をしていました。

オラ イペ オカ アン アクス
ora ipe oka an akusu
こんど 食事 が終わっ たところ

そして食事が終わると

オラ エネ ハウエアニ。
ora ene hawean _hi.
こんど このように言った

このように言いました。

"タン アコン ニシパ イタカン チキ
"tan a=kor_nispa itak=an ciki
これ (私の) 旦那さん 言う(私) したら

「旦那さん、私の言うことを

エイヌ カトウ エネ アニ。
e=inu katu ene an _hi.
(お前)聞く いきさつ こう いう こと

よく聞いてください。

75 アシヌマ アナクネ ネブ アイヌ カ ソモ ネ
asinuma anakne nep aynu ka somo ne
私 は 何 人間 でも ない

私は人間ではないのです。

ミントウチ トノ⁶ アネ ヒネ アナン ルウエ ネ ア プ
mintuci tono a=ne hine an=an ruwe ne a p
河童の 神 (私)であって いる(私) こと だった が

私は河童の神なのです。

カムイ オロ ウン インカラン コロ
kamuy or un inkar=an kor
神 の所 で 見る(私) と

神の国を見渡すと

アエヤイコトムカ メノコ カ イサム ノ
a=eyaykotomka menoko ka isam no
(私)ふさわしい 女性 も いない で

私にふさわしい女性がいなくて

6 ミントウチ mintuci は河童のことであるといわれ、上田トシ氏もそのように説明している。和ん文化の河童と共通するのは水に棲む妖怪であり、人間に対して悪さをする点がある点である。しかし中にはこの話のように神に近い存在として語られたものもある。この場合のトノ tono は神に対する尊称。

- アイヌ オルン インカラアン コロ
aynu or un inkar=an kor
人間 の所 で 見る(私) と
人間の世界を見ると
- 80 エマツネポ パク シレトク
e=matnepo pak siretok
(お前の)娘 ほど 美しい
あなたの娘さんの美しさ
- イサム シレトク ネ ヒ アエラマス ワクス
isam siretok ne hi a=erasasu wakusu
いない 美しい だ こと (私)好きになる ので
その美しさに心惹かれたので
- エカン ワ エチ…
ek=an wa eci…
来る(私) して (お前達)
やって来たのです。
- オンネ パクノ エチカシオイキアン⁷ ワ
onne pakno eci=kasioyki=an wa
老死する まで (お前達)養つ て
老死するまであなたたちを養って
- エチオンネ ワ イサム ヤク
eci=onne wa isam yak
(お前達)老死し て しまう すれば
老死したならば
- 85 オラ オカケ タ エマツネポ アトウラ ワ
ora okake ta e=matnepo a=tura wa
こんど その後 で (お前の)娘 (私)連れ て
その後あなたの娘を連れて
- カムイ オツ タ アラパアン ワ
kamuy or_ ta arpa=an wa
神 の所 に 行く(私) して
神の国に行って
- カムイ オツ タ ウコラム⁸ クナク
kamuy or_ ta ukoram kunak
神 の所 で 結婚する つもりだと
神の国で結婚しよう
- アラム コロ アナン ルウエ ネ ア プ
a=ramu kor an=an ruwe ne a p
(私)思っ て いる(私) こと だった が
思っていたのですが
- タン メノコ エチカシヌカラ⁹
tan menoko eci=kasnukar
この 娘 (お前達)を守る
この娘はあなたたちを守る
- 90 カムイ サシニ ネ アアン ヒネ
kamuy sasini ne aan hine
神 の子孫 だった して
神の子孫であったので
- ネ カムイ オナハ イコチャランケ
ne kamuy onaha i=kocaranke
その 神 の父 (私に)意見を
その神の父に意見をされました。

7 人称接辞が前後についているが、どうしてそうなっているのかは不明。

8 ウコラム ukoram で「結婚する」というのは辞書類には未見だが、ここでは文脈から判断した。あるいはウコロ ukor (結婚する)と言おうとしたものか。

9 chikashnukar 神に守護せられる [久 120] にエ e がついた形。この娘は河童の神が代々守護してきた家系の娘であったということ。

ケサンチカラ イコチャランケ ワ
 kes ancikar i=kocaranke wa
 毎 晩 (私に)意見をす りて

毎晩意見をされて

エネ ネ ヒ カ タネ イサム。
 ene ne hi ka tane isam.
 どう する こと も 今 ない

今はもうどうしようもないのです。

アイヌ アナクネ
 'aynu anakne
 人間 は

『人間は

95 アイヌ オルン イオシッコテ プ ネ。
 aynu or un iosikkote p ne.
 人間 の所 で 人を好きになる もの だ

人間のところで恋をするものだ。

カムイ アナクネ カムイ オルン
 kamuy anakne kamuy or un
 神 は 神 の所 で

神は神のところで

イオシッコテ プ ネ ヒケ⁽¹⁰⁾
 iosikkote p ne hike
 人を好きになる もの な のに

恋をするものなのに

ヒンタ クス アイヌ オルン イオシッコテ ヒ クス
 hinta kusu aynu or un iosikkote hi kusu
 何の ために 人間 の所 で 人を好きになる のだ

一体どうして人間のところで恋愛をして

エネ エイキ コロ エアン
 ene e=iki kor e=an
 こう (お前)し て (お前)いる

このようなことをしているのだ。

100 ネイ パクノ エネ エイキ クニ エラム ヤク…
 ney pakno ene e=iki kuni e=ramu yak…
 いつ までも こう (お前)する と (お前)思う と

いつまでもそんなことをしていようと

クニ エラム ヤクン アナクネ
 kuni e=ramu yakun anakne
 と (お前)思う ならば

思うならば

アツテイネモシリ⁽¹¹⁾
 atteynemosir
 湿地の国

湿地の国に

オナ トウラノ アエシリコオテレケ クス ネ…
 ona turano a=esirkooterke kusu ne…
 父 と共に (人)踏み落とされ ようとしている

父と共に蹴落とされても

10 神と人間との間にはこのような倫理観があると考えられている。そこを踏み越えて恋愛をするのは道に外れているということで非難の対象になる。

11 地下にあるとされる魔物などが住むと湿地の国。死者の国とは別であり、道に外れることをした神や妖怪が罰として踏み落とされる場所。非常に居心地が悪いうえ、ここに落とされたものは二度とこの世に戻ることができないという最も重い罰を科されることになる。

- ネ ヤッカ ピリカ ヤクン
ne yakka pirka yakun
で も いい ならば
- 105 ネイ パクノ ネ ポン メノコ
ney pakno ne pon menoko
いつ までも その 若い 娘
- カトウ エカラ クス
katu e=kar kusu
(お前)好きになる ために
エネ エイキ クニ ネ ヤクン
ene e=iki kuni ne yakun
そう (お前)する つもり である ならば
- アシリコオテレケ クス ネ ナ
a=sirkooterke kusu ne na'
(私)ひどく踏み落とす つもり だ よ
- セコロ アン ペ ケサンチカラ
sekor an pe kes ancikar
と いう もの 毎 晩
- 110 アイコチャランケ アイネ
a=i=kocaranke ayne
(人が私に)意見をする うちに
- タネ エネ ネ ヒ カ イサム ワ
tane ene ne hi ka isam wa
もう どう する こと も なく て
- タネ シキルアン クス ネ コロカ
tane sikiru=an kusu ne korka
もう 向きを変える(私) つもり だ けれど
- シキルアン オカ タ
sikiru=an oka ta
向きを変える(私) の後 で
- ネプ カ タン コタン アナクネ
nep ka tan kotan anakne
何 も この 村 は
- 115 ネプ カ ウェン カ ソモ キ クス ネ コロカ
nep ka wen ka somo ki kusu ne korka
何 も 悪い も しない つもり だ けれど
- アラパアン エトコホ アナクネ
arpa=an etokoho anakne
行く(私) の先 は
- シピチャラ¹² ウン アラパアン クス ネ クス
sipicar un arpa=an kusu ne kusu
静内 に 行く(私) つもり だ から

いいと言うのか。

いつまでもその娘が

好きで

そのようなことをするつもりならば

湿地に蹴落としてやるぞ』

と毎晩私に

意見をきて来て

もうどうしようもないのです。

今はもうよそに向かうことにしましたが

私がよそに行った後で

この村には

何も悪いことは起きないけれど

私が行く先は

静内に行くつもりなので

12 静内の古名。「染退」と当て字される。

アラパアン エトコ タ ネ シピチャルン
 arpa=an etoko ta ne sipicar un
 行く(私) の先 に その 静内 の

行った先、静内での

ネプ カ パハウ アン ナンコン ナ”
 nep ka pahaw an nankor_ na”
 何 かの 噂 ある でしょう ね

何かの噂を聞くでしょう」

120 セコロ ハウエアン コロ アン ア プ
 sekor hawean kor an a p
 と 言っ て い た が
 オラ ヤイソユネレ ヒ
 ora yaysoyunere hi
 こんど 自分で外に出る こと

と言っていました。

そして自分から外に出て行きました。

オラ エネ アリキキ ワ トウラノ アナン フミ
 ora ene arikiki wa turano an=an humi
 こんど こう 頑張っ て 一緒に 暮らす(私) 感じ

あのように働き者と一緒に暮らしていて

ピリカ オツカヨ ネ ア プ
 pirka okkayo ne a p
 良い 男性 だっ た が

心地よい男性だったものを

セコロ アン ペ アナクネ
 sekor an pe anakne
 と いう もの は

とって

125 ケウトウム オツ タ アケムヌ ネ ヤ キ コロカ
 kewtum or_ ta a=kemnu ne ya ki korka
 心 の中 で (私) 哀れむ で も する けれど

心の中ではかわいそうに思ったけれど

タネ エネ ネ ヒ カ イサム
 tane ene ne hi ka isam
 もう どう する ことも ない

もうどうしようもありませんでした。

ラポッケ ソイエネ ワ イサム ワ
 rapokke soyene wa isam wa
 そのうちに 外に出 て しまっ て

外に出て行って

ナニ アマツネポ ソイネ ア コロカ
 nani a=matnepo soyne a korka
 すぐ (私の) 娘 外に出 た けれど

すぐに娘が追いかけたのですが

… ネ ヤッカ ネ オロ オシマ ヘ カ
 ... ne yakka ne oro osma he ka
 で も どこに 行った か も

どこに行ったか

130 エランペウテク セコン ネ コロ
 erampewtek sekor_ ne kor
 をわからない と いう と

わからないといって

アフン ルウエ ネ ア コロカ
 ahun ruwe ne a korka
 家に入る こと だっ た けれど

帰って来ました。

アオカラモッテ

a=okaramotte

(私)名残惜しく思う

名残惜しく思って

エネ トウラノ アナン フミ ピリカ プ セコロ

ene turano an=an humi pirka p sekor

こう 一緒に 暮らす(私) 感じ 良い ものと

あのように一緒に暮らしていて心地がいい人と

ヤイヌアン ワ アオカラモッテ ア コロカ

yaynu=an wa a=okaramotte a korka

思う(私) して (私)名残惜しく思っ た けれど

思って名残惜しく思ったけれど

135 エネ ネ ヒ カ イサム。

ene ne hi ka isam.

どう する ことも ない

どうしようもありませんでした。

アイヌ ネ カ ソモ キ ノ

aynu ne ka somo ki no

人間 で も ない で

人間ではなく

ミントウチ ネ ヤク イエ プ

mintuci ne yak ye p

河童 だ と 言う もの

河童だというものを

エネ ネ ヒ カ イサン マ

ene ne hi ka isam _wa

どう する ことも なく て

どうしようもありません。

… コロ オカアン ラポッケ

… kor oka=an rapokke

して 暮らす(私) そのうちに

そうしているうちに

140 シピチャルン ネ ミントウチ アラパ ワ

sipicar un ne mintuci arpa wa

静内 に その 河童 行っ て

静内に河童が行って

コタン ウエンテ ヤク アイエ ヒ¹³ アヌ ワ

kotan wente yak a=ye hi a=nu wa

村 を荒らす と (人)言う こと (私)聞いて

村を荒らしたというのを聞いて

エアラキンネ ヤイケウエホムスアン ペ ネ ア クス

earkinne yaykewehomsu=an pe ne a kusu

本当に 自分の無事を喜ぶ(私) もの だっ た ので

本当に無事を喜んだので

アイエ セコロ

a=ye sekor

(私)言う と

お話ししますと

ヒナクン アイヌ イソイタク ハウエ ネ ヤ カ

hinak un aynu isoytak hawe ne ya ka

どこ の 人間 物語る 話 だ か も

どこかの男が物語りましたというのか

13 この話では主人公の家系を守護する神に近い存在として描かれている河童も、やはり本来は人間に災いをもたらす存在であるということらしい。この主人公の家でも両親の死後に娘の魂を取ろうとしていたというのだから悪事を働こうとしていたということだろう。

145 ケラミシカリ ルウエ ネ ワ。
k=eramiskari ruwe ne wa.
(私)わからない の です よ

私 (=話者) はわからないのですよ。

アイヌ民族博物館 民話ライブラリ 2

上田トシの民話 2

発行日 2015年2月28日

編集・発行 一般財団法人 アイヌ民族博物館

〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2-3-4

TEL 0144-82-4199 FAX 0144-82-6121

本書は平成26年度公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の研究・出版助成（アイヌ文化関連出版助成）の成果である。